

「会員短信 29」

「名前の言霊」 龍田珠美

知り合いの奥さんが妊娠した時、ご主人がこう言った。「子どもには自由に選択できる人生を歩んでもらいたいから、親の願いやこだわりを持った名前はつけない。それに女性の心を持った男性かもしれないし、その反対も有りうる。そういう意味でもか弱い名前をつけたい」。私は、驚きと共に感銘を覚えた。時代と共に人気のある名前は変わっているが、昨今のキラキラネームも、もしかしたら今の時代に則しているのかもしれない。

ところで、私の娘二人は恋愛結婚だが、長女の夫の名前には、私の父と祖父の名前の漢字が一文字ずつ入っている。そして、次女の夫には、私の息子の名前の漢字が一文字入っている。最終的には、お互い気に入って結婚したのは間違いないけれど、娘達は名前に何か感じるものがあつたかもしれない。

さて、私の名前は祖母が付けてくれたが、ある人に「婚家にふさわしい名前ね」と言われた事がある。主人とは見合結婚だが、釣書を見る前日の夢の中に婚家の名字が一文字違いで出てきた。そのせいか大きな縁を感じて結婚した。こういう話をすると「靈感があるでしょ」と言われる。でもそれは靈感というより、名前の言霊が引き寄せた縁のように思う。これは結婚三十年を経て納得できた事である。

現在、娘達は夫婦喧嘩をしながらも、結婚生活を楽しんでいるようだ。将来、伴侶との縁に気づき納得する時がきたら、それは名前の持つ言霊の力なのかもしれない。